

# 30代教師の転

起  
んでも  
きる!

失敗やつまずきを転機に、授業力を高める!



## 「進学校の生徒だから」という思い込みを改め 得点力と読解力を育む指導を追究

山形県立酒田東高校

石山隆雄先生

30歳

### 私が乗り越えてきたもの

#### 「進学校の生徒だから大丈夫」

新卒で酒田東高校に着任して4年間、国語科の先輩の先生と共に学年を持ち上がりました。丁寧に順を追って文章を読み取り、提出物も徹底するなど、手厚い指導を心掛けていました。

5年目、1年生の担任になった時は、学年団に国語教師は私一人でした。プレッシャーよりも「こんな指導をしてみたい」という期待の方が大きく、これまで抱いていた「進学校の生徒だから、もっと自主性を伸ばす指導をしてみたい」という思いを投影しました。生徒が文章を読みこなせているという前提で、読解プロセスの細かな解説よ

りも、文章全体の把握を目標にしたのです。演習プリントも作成し、最初は提出を義務付けていましたが、やがて任意としました。成績もある程度向上し、私は自分の指導の方向性が間違っていないと思っていました。

ところが、持ち上がりで担任していた2年生の秋、模試の成績が急落しました。特に現代文は、この時期から増える抽象的思考力を要する文章を全く読みこなせていなかったのです。

#### 自主性尊重という名の無責任

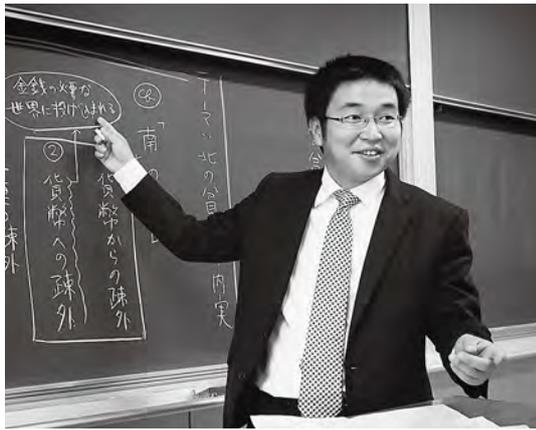
必死で原因を考え、思い至ったのは、

### 思い込みから目の前の生徒が見えなかった

丁寧に文章を読む習慣付けが不十分だったということです。「進学校の生徒なのだから、解答はどうやって導くかを解説しなくても、理解できているだろう」という甘い考えがありました。

また、演習プリントを任意提出としたことも、成績降下の原因となりました。「もう家庭学習の習慣は付いているはずだ」という思い込みから、生徒がどの程度プリントに取り組んでいるかをつかめていなかったのです。

私は生徒の自主性を尊重したつもりでしたが、実際には無責任な指導をしていました。「進学校の生徒はこういうものだ」という私のイメージに生徒を当てはめ、「生徒任せの指導」をしてしまっていたのです。



いしやま・たかお ◎教職歴7年。同校に赴任して7年目。担当教科は国語。3学年担任。  
山形県立酒田東高校 ◎全日制／普通科／共学。  
10年度入試では、国公立大は、北海道大、東北大、山形大、筑波大、東京大などに139人が合格。私立大は明治大、立教大、早稲田大などに延べ209人が合格。

